

① 特許AI個体識別 × DXオークション

デジタルで、価値を最大化する



AIが個体を科学的に評価

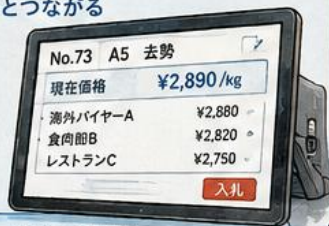
- ・個体識別
- ・血統・育種データ
- ・健康状態
- ・肉質・歩留まり予測

デジタルデータで
全てを可視化

DXオークションプラットフォーム

全国・海外のバイヤーとつながる

- ・リアルタイム競り
- ・透明性の高い取引
- ・価格の最適化
- ・決済のデジタル化



ブロックチェーンで信頼を担保

- ・改ざん不能な取引記録
- ・トレーサビリティの確保
- ・スマートコントラクトで自動決済



スマート食肉産業がもたらす価値



経済的価値

- ・高付加価値化
- ・輸出拡大
- ・所得向上



環境的価値

- ・資源の循環利用
- ・CO₂削減
- ・脱炭素社会実現



社会的価値

- ・地域雇用の創出
- ・食の安全・安心
- ・持続可能な地域

和牛 × テクノロジー × 循環型農業

持続可能な未来を、次の世代へ

おいしい和牛を育て、エネルギーを生み、自然に還す。
日本から世界へ誇れる、スマート食肉産業のかたち。

和牛がつなぐ、命の循環

高品質な和牛生産

- ✓ 健康管理
- ✓ 飼養データの蓄積
- ✓ ストレスフリーな環境
- ✓ 高度な飼育技術



堆肥・液肥

- ・有機肥料として還元
- ・土づくり、地力向上
- ・化学肥料の削減



④ 有機肥料として農地へ還元

土を豊かにし、作物を育てる

安全・安心な農産物の生産

- ・土壌の微生物が活性化
- ・地域農業の活性化

和牛の力で、未来の地球を守る。

日本発の循環型モデルを、世界のスタンダードへ！

② 稲わら飼料 × 地域資源の活用

国産資源で、コストを抑え、品質を高める

稲わらを飼料として有効活用

- ・地域で生産される稲わら
- ・栄養価の高い発酵飼料に加工
- ・和牛の健康と肉質向上に貢献



③ メタン発酵バイオガス発電

エネルギーを生み、環境負荷をゼロへ

家畜の排せつ物をエネルギーに変換

- ・メタン発酵でバイオガスを生成
- ・発電・熱利用でエネルギー自給
- ・CO₂削減と脱炭素社会に貢献

バイオガス発電

- 電気
- 熱
- CO₂削減



クリーンな
エネルギーで猪
地域を支える！



この循環が、未来をつくる

- ① 和牛を高付加価値で生産・販売
- ② 稲わらなど地域資源を飼料に活用
- ③ 排せつ物をバイオガスでエネルギー化
- ④ 有機肥料として農地に還元

完全循環

食とエネルギーの自給こそ、国の安全保障



食料安全保障
安定した食料供給



エネルギー安全保障
自給自足のエネルギー



経済安全保障
強い産業と地域経済



持続可能な未来
次世代へつなぐ豊かな地球

Phase 1～5 段階導入ロードマップ（ネットオークション）

小さく始めて、確実に成果を出しながら全国・世界へ拡大する5段階のロードマップ

	Phase 1 実証・基盤構築	Phase 2 機能拡充・エリア拡大	Phase 3 全国展開・最適化	Phase 4 アジア展開・輸出強化	Phase 5 世界食肉取引所へ
目的	小規模エリアで実証し、 仕組み・品質・運用を確立	複数市場・複数産地へ拡大し、 機能と信頼性を高める	全国の市場・産地を接続し、 データ活用で取引を最適化	アジア圏のバイヤーと接続し、 輸出入取引を拡大	世界中の取引所・市場と連携し、 グローバルプラットフォームへ進化
主な 取り組み	- 特定市場・特定品種での試験運用 - 出品～入札～落札～決済の基本機能 - AI品質評価・価格予測の基礎実装 - 出品者・買参人のデジタル登録 - 操作教育・サポート体制の整備	- 複数市場・複数産地への展開 - AI品質評価の高度化・部位別情報提供 - 与信管理・決済機能の強化 - 物流連携・配送手配の自動化 - モバイルアプリ・多言語対応	- 全国の市場・産地をネットワーク接続 - AI価格予測の精度向上・需給分析強化 - リアルタイム需給マッチング - マーケットインサイトの提供 - 業界標準データ連携（API整備）	- アジア圏バイヤーの参加拡大 - 多言語・多通貨対応 - 輸出検疫・規制対応の自動化 - 国際物流・通関連携の強化 - 海外マーケティング・プロモーション	- 世界の取引所・市場との連携（GME） - ブロックチェーンによる取引証明 - スマートコントラクト決済 - 世界標準の品質・取引ルール確立 - グローバルブランドの確立
成果・KPI （目標例）	- 取引成約率：80%以上 - トラブル件数：月1件以下 - システム稼働率：99.0%以上 - 満足度（生産者/買参人）：70%以上	- 月間取引頭数：3,000頭以上 - 取引成約率：85%以上 - 買参人数：500社以上 - システム稼働率：99.5%以上	- 月間取引頭数：10,000頭以上 - 取引成約率：88%以上 - 価格の透明性向上：指標15%以上改善 - 生産者平均販売単価：前年比+10%	- 輸出取引比率：20%以上 - 海外バイヤー社数：1,000社以上 - 外国為替取扱額：年間100億円以上 - 平均販売単価：前年比+15%	- 世界取引シェア：10%以上 - 取扱国：50か国以上 - 年間取引額：5,000億円以上 - 生産者利益向上率：前年比+30%
参加範囲	特定市場・特定産地 限定の生産者・買参人	複数市場・複数産地 国内の買参人へ拡大	全国の市場・産地・買参人 加工業者・卸売業者も参加	アジアのバイヤー・輸出業者 国内外の加工・小売業者	世界中の市場・バイヤー・生産者 金融機関・行政機関も連携
システム 機能レベル	基本機能 ★★★★☆	標準機能 ★★★★★	高度機能 ★★★★★	国際対応機能 ★★★★★	グローバル最先端機能 ★★★★★
イメージ図					
期間（目安）	0～6か月	6か月～18か月	18か月～36か月	36か月～60か月	60か月以降

データ蓄積 → AI精度向上 → 価格の透明性向上 → 生産者利益最大化 → 持続可能な食肉流通エコシステムの実現

成功のポイント

- ✓ 小さく始めて確実に成果を出す
- ✓ 現場と共に改善を継続する
- ✓ データと信頼を積み上げ拡大する

Chapter 1

はじめに なぜ今、日本に和牛DXが必要なのか

日本の食肉流通を世界標準へ - AI・DX・金融・循環型農業で未来を創る



- ✓ 日本の畜産業は、構造的課題に直面し、持続可能性の岐路に立っています。
- ✓ 和牛DXは、AI・デジタル技術・金融・循環型農業を統合し、産業全体を再構築します。
- ✓ 日本から世界へ、未来の食肉流通モデル「世界食肉取引所」を実現します。

図1 和牛DXが目指す未来の姿（全体コンセプト図）



図2 和牛DXの5つの柱（統合モデル）



図3 日本の牛肉生産量の推移



図4 畜産農家戸数の推移



図5 畜産従事者の年齢構成（2024年）

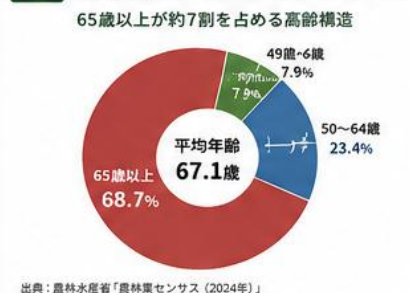


図6 枝肉市場の取引の現状（アナログ構造）



図7 和牛輸出額の推移



図8 和牛輸出先国の拡大（2014年→2024年）



図9 和牛DX導入によるインパクト（2035年の目標イメージ）



私たちのビジョン

世界最高の和牛を、世界最高の流通システムで。



和牛DXは、単なるデジタル化ではなく、日本の畜産業を次世代へつなぐ国家プロジェクトです。
生産者・バイヤー・金融機関・物流・消費者がつながる未来の食肉流通を、今ここから実現します。



Chapter 2 日本の畜産業の危機 図版・グラフ掲載案一覧

本章のキーマッセージ：生産者の減少・高齢化、価格の不透明性、アナログな市場構造、輸出の伸び悩み——
このままでは、日本の畜産業は持続不可能。DXによる構造改革が不可欠です。

図1 畜産農家戸数の推移

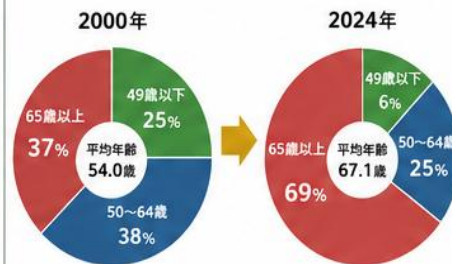
20年間で約40%減少



出典：農林水産省「畜産統計」「農林業センサス」より当社作成

図2 畜産農家の高齢化の進行

65歳以上の経営者が約7割



出典：農林水産省「畜産統計」「農林業センサス」より当社作成

図3 生産コストの上昇と販売価格の乖離

コストは上昇しても販売価格は横ばい



出典：農林水産省「畜産物生産費統計」「食肉流通統計」より当社作成

図4 枝肉市場の取引方法の現状 (アナログ構造)

紙・電話・人手に依存した非効率な取引



出典：当社調査

図5 枝肉価格の地域間格差 (2024年)

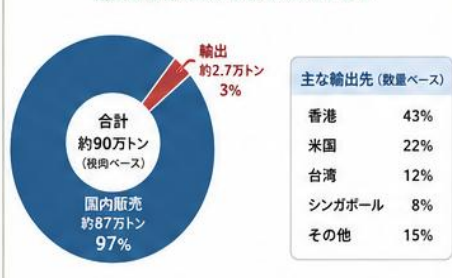
同じ和牛でも地域によって価格差が大きい



出典：農林水産省「食肉流通統計」より当社作成

図6 和牛枝肉の国内販売と輸出の割合 (2024年)

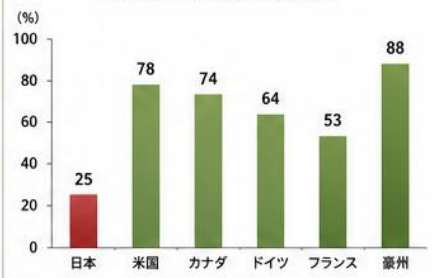
輸出は全体のわずか約3%にとどまる



出典：財務省「貿易統計」、農林水産省「食肉流通統計」より当社作成

図7 飼料自給率の国際比較 (2022年)

日本は低水準、海外依存が高い



出典：農林水産省「食料需給表」、OECDデータより当社作成

図8 このまま推移した場合の生産基盤の将来予測

2035年には生産者戸数がさらに約30%減少



出典：当社推計

図9 畜産業が抱える構造的課題の全体像 (まとめ図)



畜産業の危機は、放置すれば「国の食料安全保障・地方経済・日本ブランドの未来」に直結する重大な課題です。
今こそ、DXによる構造改革で持続可能な畜産業へ転換することが求められています。





図1 世界の牛肉市場規模の推移と予測

世界の牛肉市場は2033年に約730兆円規模へ拡大予測

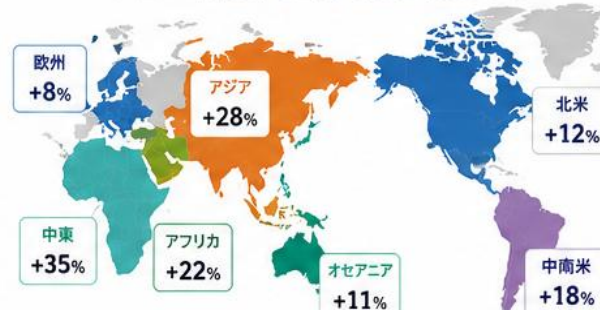


世界の牛肉市場は人口増加・所得向上・食生活の多様化により、年平均約4.6%で成長すると予測されています。

出典：OECD-FAO Agricultural Outlook 2024、各種調査レポートより当社作成

図2 国・地域別 牛肉需要の伸び率 (2023→2033)

アジア・中東を中心に高い成長が見込まれる



特にアジア・中東は、人口増加と経済成長により、牛肉需要が大きく拡大します。

出典：OECD-FAO、IMF、World Bank データより当社作成

図3 国・地域別 和牛輸出額の推移

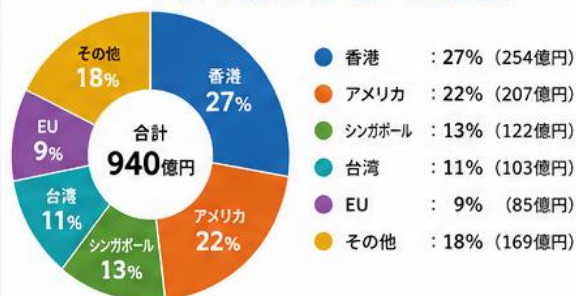
和牛輸出額は10年で約5.7倍に拡大

和牛は世界の高級レストラン・富裕層を中心に需要が急拡大。
輸出先国・地域数も増加 (2014年：40か国 → 2024年：74か国)

出典：財務省 貿易統計より当社作成

図4 主要国・地域の和牛輸出シェア (2024年)

アジアが最大市場、北米・欧州が続く



和牛はアジアを中心に高いブランド力を確立。北米・欧州でもプレミアム牛肉として認知が拡大しています。

出典：財務省 貿易統計 (2024年) より当社作成

図5 和牛の国際的な強み (5つの価値)

日本の強みをデジタルと信頼で世界へ



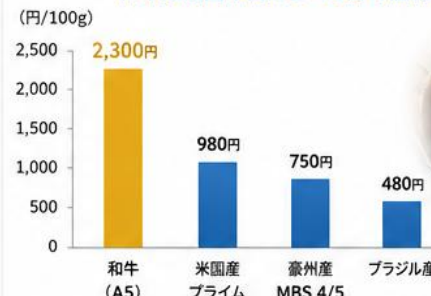
世界食肉取引所 (Global Meat Exchange) で最大化



品質・信頼・技術・持続可能性のすべてを備えた日本の和牛は、世界市場でさらなる成長余地を持っています。

図6 和牛の国際価値 (価格比較イメージ：100gあたり)

和牛は他国牛肉の2～5倍の価格で取引

和牛の高い価格は、品質・希少性・ブランド力の証。
世界食肉取引所により、適正価格での流通を実現します。

出典：各国輸出価格データ (2024年) より当社作成 (当社調べ)

世界の牛肉市場は拡大を続け、和牛は「世界のプレミアムブランド」へ。
その価値を最大化する鍵が、世界食肉取引所 (Global Meat Exchange) です。

市場の拡大



日本の強み



デジタル基盤



グローバル流通

日本から
世界の食肉流通を
変えていく

Chapter 4 世界食肉取引所 (Global Meat Exchange) 構想 図版・グラフ掲載案

日本の和牛を世界基準へ。AI・DX・金融・物流・循環型農業を統合したグローバルプラットフォーム

1 世界食肉取引所 (Global Meat Exchange) 全体概念図



すべての取引・情報・物流・金融をデジタルでつなぎ、透明で公正・安全・高効率な世界食肉流通

2 現行市場との違い (比較図)

	現行の枝肉市場 (アナログ)	世界食肉取引所 (DX市場)
販売方法	対面セリ・相対取引	オンラインオークション (24/7)
情報の透明性	不透明・ブラックボックス	全取引・価格・品質を公開・可視化
品質評価	人の目視・経験に依存	AI・3D画像で客観評価・標準化
参加者	地域限定・店舗限定	世界中のバイヤーが参加可能
決済方法	現金・手形・掛取引中心	即時決済・エスクロー・多通貨対応
物流	手配が分散・非効率	最適物流・コールドチェーン統合
データ活用	紙・Excel等で分散管理	データ連携・AI分析で価値最大化
取引スピード	遅い (数日～数週間)	リアルタイム (数分～数時間)
金融活用	限定的 (担保評価が困難)	食肉金融・在庫担保・輸出金融

DXにより「透明性」「公正性」「スピード」「信頼性」を劇的に向上

3 世界中のバイヤーが参加できる理由



世界のどこからでも、公平・安全に取引できるグローバルプラットフォーム

4 AI品質評価の仕組み



5 世界共通の商品情報 (デジタルパスポート)



6 決済DX (安全・即時・多通貨対応)



7 物流DX (コールドチェーン・最適物流)



8 市場DX (オンラインオークションの流れ)



9 生産者・地域へのメリット



10 2035年の世界食肉市場ビジョン

取扱高 (和牛)	参加国・地域	年間取引頭数	CO2削減効果	生産者所得
5兆円 (世界流通の約20%)	100カ国 以上	500万頭 以上	-25% (循環型農業との連携)	+30% (2024年比)

日本発のデジタル市場が、世界の食肉流通のスタンダードになる

世界食肉取引所が実現する未来

- 日本の和牛が「世界基準の価値」で評価される
- 生産者・バイヤー・消費者すべてがWin-Winの関係に
- AI・DX・金融・物流・循環型農業で持続可能な社会を実現
- 日本の食肉産業が世界をリードし、国の成長エンジンとなる

共創パートナー



導入ロードマップ (抜粋)



世界食肉取引所 (Global Meat Exchange) は、日本の畜産業と食肉流通を次のステージへ導く国家プロジェクトです。

Chapter 5 食肉市場DX 図版・インフォグラフィック (8~10校)

1 食肉市場DXの全体像

出荷から決済・物流までをデジタルで一気通貫



透明・公正・スピード・信頼を実現し、すべての関係者に価値を提供

3 標準業務フロー (DX化後)

一気通貫のデジタル業務フロー

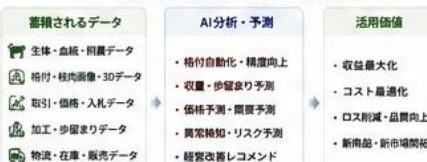


5 関係者別の主なメリット



7 データ活用とAIによる価値創出

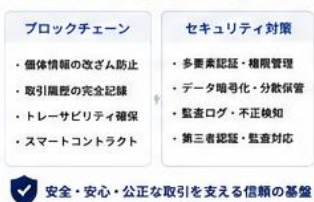
データが資産となり、新たな価値を生む



データ × AI = 競争力の源泉

8 セキュリティ・信頼基盤

ブロックチェーンと多層セキュリティで信頼を担保



2 現行市場の課題とDXによる解決

アナログ依存からの脱却



DXで「信頼」「効率」「収益性」を同時に向上

4 市場DXを構成する主要8機能



6 オンライン競りの仕組み

公正・透明・リアルタイム



場所を問わず、公平でスピーディーな取引を実現

9 DX導入の5段階ロードマップ

段階的に進め、確実に成果を創出



10 DXが実現する未来の食肉市場

デジタルでつなぎ、信頼で取引し、価値で未来を創る

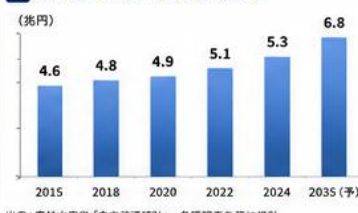


食肉市場DXは、未来の食肉流通のスタンダードをつくる

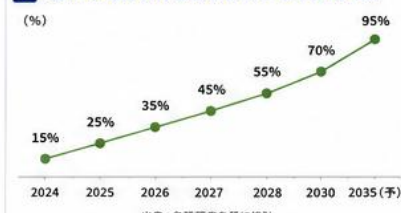
日本の和牛を、世界の食卓へ

Chapter 5 食肉市場DX グラフ集 (主要データ・グラフ10選)

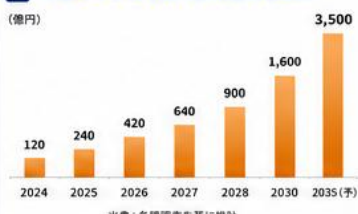
1 国内食肉流通市場規模の推移



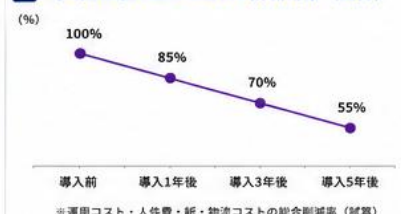
2 食肉市場における取引のデジタル化率予測



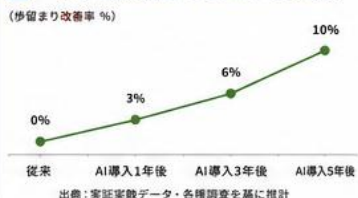
3 オンライン競り取引額の推移と予測



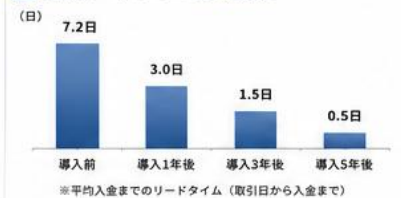
4 市場DX導入によるコスト削減効果 (試算)



5 AI格付の精度向上による歩留まり改善効果



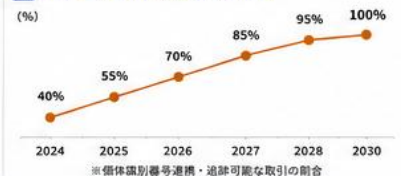
6 決済リードタイムの短縮効果



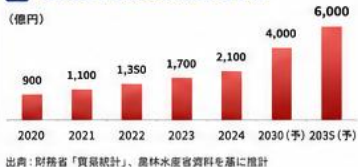
7 生産者の所得向上効果 (GME導入による試算)



8 トレーサビリティ対応率の向上



9 国内食肉の輸出額の推移と予測



10 市場DX導入による取引件数の増加効果

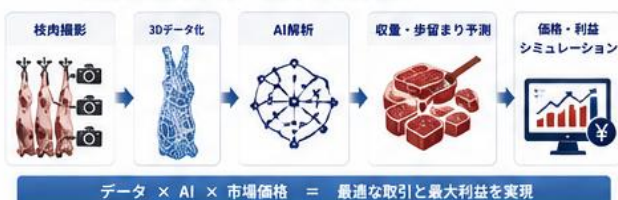


DXが市場を変え、データが価値を生み、未来の食肉流通を創る

Chapter 6 AI品質評価 図版・インフォグラフィック (全10案)

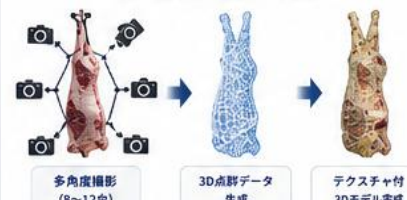
1 AI品質評価の全体構成

枝肉をデジタル資産化し、利益まで可視化する仕組み



2 複数カメラ撮影と3Dモデル生成の流れ

死角のない高精度なデータ取得



3 AI解析による部位推定と脂肪・筋肉の識別

深層学習で高精度に可視化・数値化



4 部位別重量・構成比率の推定

AIが部位ごとの重量と構成比を自動算出



5 用途別収量予測 (焼肉・すき焼き・ステーキ等)

用途に合わせた最適なカット収量を予測

	焼肉用	すき焼き用	ステーキ用	しゃぶしゃぶ用	切り落とし用
推定収量	86.2 kg	64.7 kg	45.3 kg	37.1 kg	32.8 kg
構成比率	22.2%	16.7%	11.7%	9.6%	8.5%

6 脂肪除去後の可食部・歩留まり予測

加工後の可食部重量と歩留まりを予測



7 価格・利益シミュレーション

市場価格・加工費・物流費を反映した利益予測

販売予測金額	加工費	物流費	予測利益
¥1,248,000	+ ¥182,000	- ¥48,000	= ¥1,018,000

※価格は市場相場・部位別単価・脂肪データをAIが自動反映

8 AI学習と実績データの循環

実加工結果を学習データにフィードバックし精度向上



9 ネットオークション画面との統合イメージ

AI評価結果をその場で確認し、最適な購買判断を支援



10 AI品質評価がもたらす価値

生産から消費まで、すべての関係者に大きな価値を提供

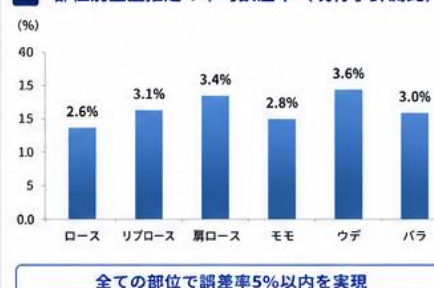


Chapter 6 AI品質評価 グラフ集 (主要データ・グラフ8選)

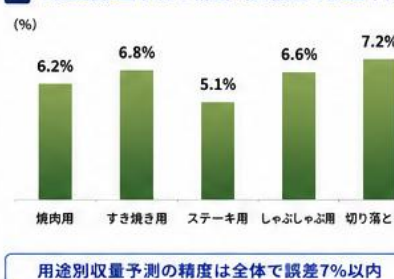
1 AI重量推定の精度推移 (実測比の誤差率)



2 部位別重量推定の平均誤差率 (現行手計測比)



3 用途別収量予測の精度 (実績比の誤差率)



4 歩留まり予測の精度推移



5 予測利益と実績利益の差異 (平均)



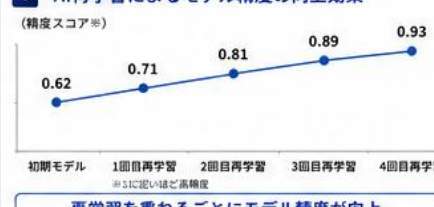
6 取引決定までの平均時間短縮効果



7 AI品質評価の導入効果 (関係者別 満足度調査)



8 AI再学習によるモデル精度の向上効果



AI品質評価で、透明性・公正性・信頼性の高い食肉取引と、持続的な価値最大化を実現します。

データとAIの力で、価値を可視化し、未来の食肉取引をリードします。



Chapter 7 AI価格予測

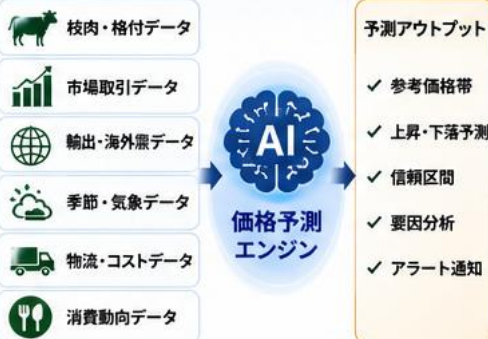
図版・インフォグラフィック 10案

データ×AIで、和牛の適正価格をリアルタイムに予測。生産者にも買参人にも、正しい価格を。



1 AI価格予測の全体構成

膨大なデータをAIが分析し、未来の価格を高精度に予測



データで価格の未来を見える化

2 価格を決める5大要因と相互関係

複雑に絡み合う要因をAIが総合分析



3 価格予測のプロセスフロー

データ収集から予測・アラートまでを自動化



4 価格予測アウトプットイメージ

参考価格と信頼区間・要因をひと目で把握



5 生産者が活用する価格予測

出荷時期と出荷規模の最適化



6 買参人・バイヤーの活用

仕入判断とリスク管理を強化



7 市場全体の価格形成を最適化

公正・透明で効率的な市場へ



8 世界食肉取引所 (GME) での活用

世界の価格を予測しグローバル取引を支援



9 AI学習の継続サイクル

実績データで精度を継続的に向上



10 AI価格予測が実現する未来

データでつなぎ、信頼で取引し、価値で未来を創る



AI 価格予測で、市場を変え、価値を生み、未来を切り拓く。



Chapter 7 AI価格予測 図版・インフォグラフィック 10案

1 AI価格予測の全体構成

データ×AIで未来価格を高精度に予測



2 価格を決める5大要因と相互関係

複雑に絡み合う要因をAIが統合分析



3 価格予測のプロセスフロー

データから価格予測までの流れ



4 価格予測のアウトプットイメージ

参考価格・信頼区間・要因をわかりやすく提示



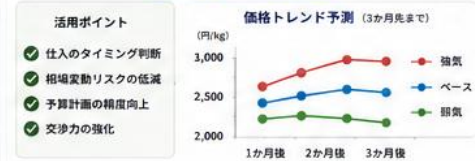
5 生産者が活用する価格予測

出荷時期と出荷戦略の最適化



6 買参人・バイヤーが活用する価格予測

仕入判断とリスク管理を強化



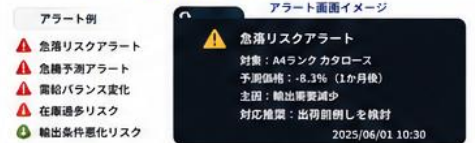
7 市場全体の価格形成を最適化

公正・透明で効率的な市場へ



8 価格予測アラートとリスク通知

急変リスクを事前に検知



9 AI価格予測の継続学習サイクル

実績データで精度を継続的に向上



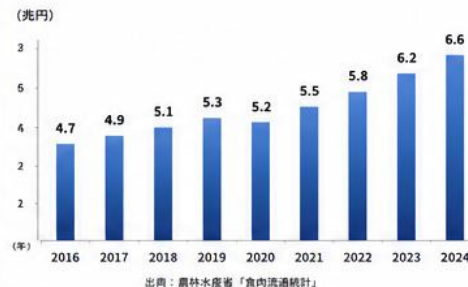
10 世界食肉取引所 (GME)での価格予測活用

世界中の取引をつなぎ、未来価格を可視化



Chapter 7 AI価格予測 グラフ集 (主要データ・グラフ8選)

1 食肉市場の年間取扱金額の推移 (国内)



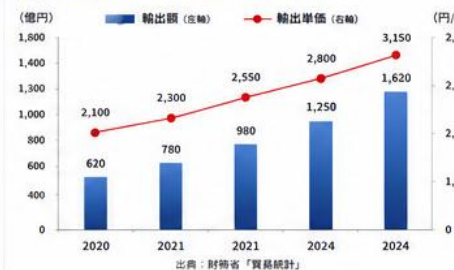
2 格付 (A5~B等級) 別 平均単価の推移



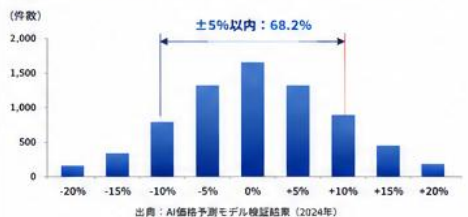
3 月別の平均単価の季節性 (和牛・全国平均)



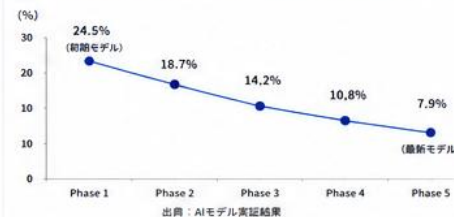
4 輸出入額と輸出単価の推移 (和牛)



5 価格変動率の分布 (予測誤差のヒストグラム)



6 AI予測モデルの精度推移 (MAPE: 平均絶対パーセント誤差)



7 要因別の価格寄与度 (平均寄与率)



8 AI価格予測導入による利益改善効果 (試算)



AI価格予測の価値



データ×AIで、未来の価格を見る化し、
食肉流通の価値を最大化する!

Chapter 8 ネットオークション 図版・インフォグラフィック 10案

1 ネットオークションの全体像

生産者から買参人までをつなぐ食肉取引プラットフォーム



3 商品情報の見える化 (AI評価付き)



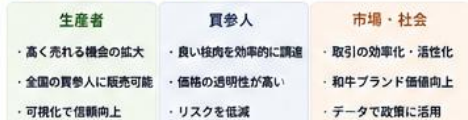
5 参加資格・本人確認・与信管理の仕組み



7 不正・価格操作への対応



9 参加者にとってのメリット



2 出品から落札・決済・物流までの標準フロー



4 入札・競りの画面イメージ



6 公平・透明な価格形成の仕組み



8 通信障害・システム障害時のフェイルセーフ



10 世界食肉取引所構想への接続

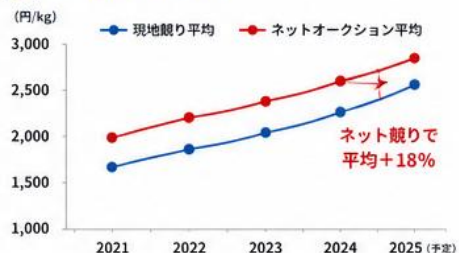


Chapter 8 ネットオークション グラフ掲載 8案

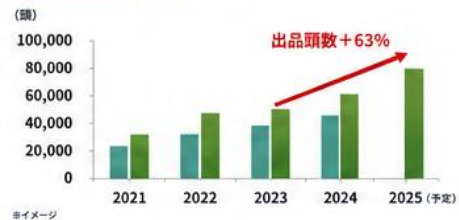
1 取引額の推移 (ネットオークション導入効果)



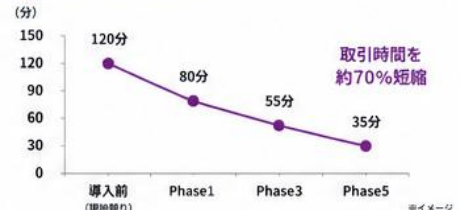
3 平均落札単価の推移



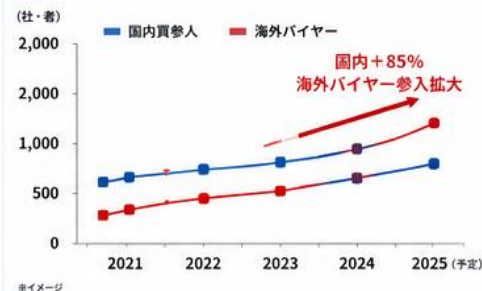
5 出品頭数の推移



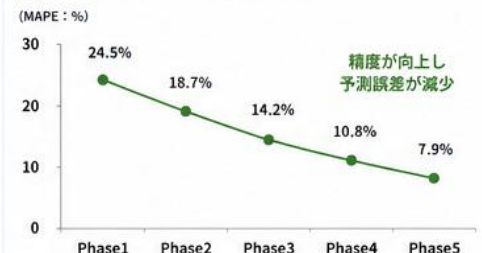
7 取引時間の短縮効果 (1頭あたりの平均取引時間)



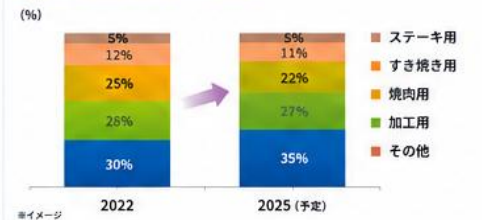
2 参加者数の推移 (買参人・バイヤー)



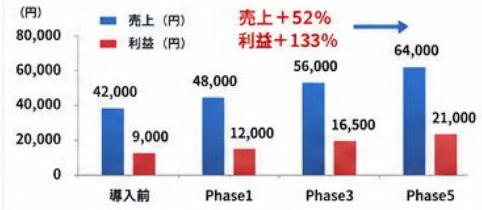
4 AI評価精度の向上 (実測との誤差率)



6 用途別落札比率の変化



8 生産者の売上・利益向上効果 (1頭あたり)



ネットオークションで、取引の透明性・効率性・公平性を高め、和牛の価値を最大化します。



データが示すネットオークションの効果: 取引拡大・価格向上・参加者増加・生産者利益向上



Chapter 9 決済DX 図版・インフォグラフィック 10案

1 決済DXの全体構成

取引の安心・即時・透明を実現するデジタル決済基盤



データ連携・自動化で、取引から会計まで一気通貫

3 入札上限管理の仕組み

残高・保証枠・与信枠に応じた入札上限を設定



過剰入札を防止 決済不履行リスクを低減 公正な競争を実現

5 決済手段の比較

銀行引落し	デビット決済	クレジットカード	エスクロー決済	保証・在庫金融
コスト低	コスト中	コスト高	コスト中	コスト中
即時性 高	即時性 高	即時性 中	即時性 中	即時性 高
与信運動 ○	チャージ必要	ポイント付与	安全性 高	資金繰り変換

取引特性・金額・リスクに応じて最適な決済手段を選択

7 安心・安全を支えるセキュリティ基盤



金融レベルのセキュリティで大切な取引と情報を保護

9 ステークホルダーへの導入効果



すべての関係者にメリットをもたらすWin-Winの決済基盤

2 法人登録・本人確認・買参資格認証の流れ



4 落札から決済までの標準フロー



数秒〜数分で決済完了 → 加工・物流へ自動連携

6 決済確定後の自動連携 (加工・物流・会計)



手作業ゼロでスピード・精度・透明性を向上

8 例外処理の対応範囲



ルール化された例外処理でトラブルを最小化

10 世界食肉取引所 (GME) への接続



安全・迅速・低コストな国際決済で世界市場へ

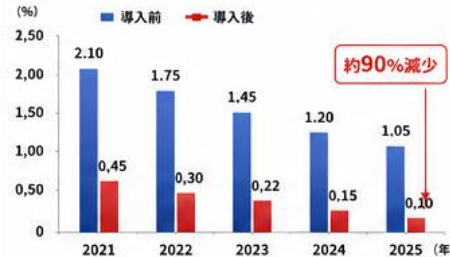
Chapter 9 決済DX グラフ掲載 8案

1 決済完了までの平均時間の推移



※平均値 (市場・買参人アンケートより)

2 決済不履行率の推移



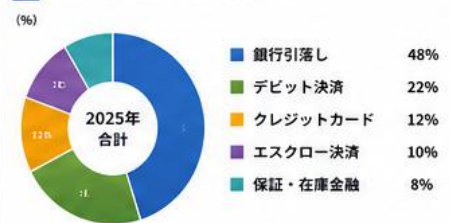
※不履行率 = 不履行件数 / 取引件数

3 取引件数の推移



※ネットオークション取引件数 (当社プラットフォーム)

4 決済手段別の利用割合 (2025年)



※件数ベース

5 買参人の入札上限額と落札額の関係 (イメージ)



※1社あたり平均

6 決済DX導入によるコスト削減効果 (市場側)



※年間コスト (概算)

7 加工指示までのリードタイムの推移



※落札確定から加工指示送信までの平均時間

8 生産者への代金入金サイクルの変化



※出荷日から代金入金までの平均日数

決済DXで「安心・即時・透明」な取引環境を構築し、和牛市場の信頼と競争力を最大化します。



Chapter 10 食肉金融 図版・インフォグラフィック 10案

1 食肉金融の全体像

データと金融をつなぎ、生産者・買参人・市場の成長を支える金融インフラ



3 信用スコアとダイナミック与信

AIが取引・財務・行動データを分析し、リアルタイムで信用力を評価



5 生産者への早期支払い (最優先目的)

販売代金を早期に生産者へ還元し、経営を安定化



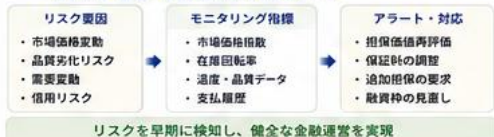
7 多通貨決済・為替管理・輸出金融

世界市場での取引を支えるグローバル金融基盤



9 リスク管理と担保価値モニタリング

市場価格・品質・在庫状況を常時モニタリング



2 取引プロセスに沿った金融サービス



4 信庫金融 (枝肉・部分肉担保スキーム)

枝肉・部分肉をデジタル在庫として評価し、資金化を実現



6 売掛債権金融・仕入金融スキーム



8 金融機関・パートナーとの協業モデル

オープンAPIで多様な金融サービスを連携



10 食肉金融が生み出す価値循環

金融の力で、和牛産業界の持続的成長を実現



Chapter 10 食肉金融 グラフ掲載 8案

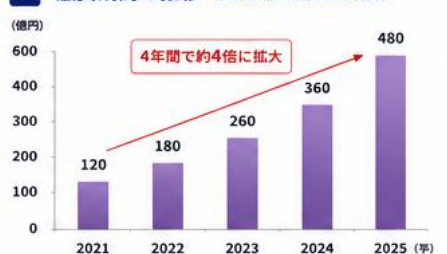
1 生産者への早期支払い率の推移



2 取引金額の推移 (食肉金融利用あり/なし比較)



3 融資残高の推移 (在庫金融・売掛金融合計)



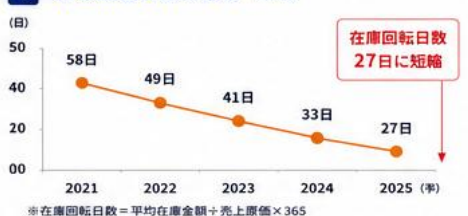
4 取引不履行率の推移



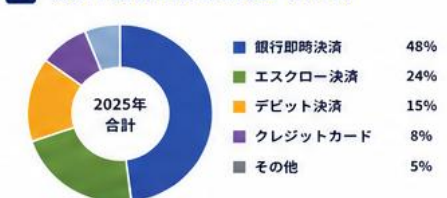
5 信用スコア別の取引構成比 (2025年)



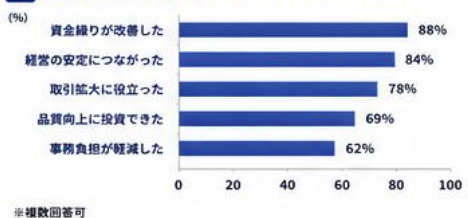
6 在庫回転日数の推移 (平均)



7 決済手段別の取引構成比 (2025年)



8 食肉金融導入効果 (生産者・買参人アンケート)



食肉金融でキャッシュフローを最適化し、生産者・買参人・市場の持続的成長を実現します。

データ連携 AI与信 在庫金融 早期支払い 多通貨対応 リスク管理

Chapter 11 物流DX 図版・インフォグラフィック 10案

1 物流DXの全体構成

データでつながる食肉サプライチェーン



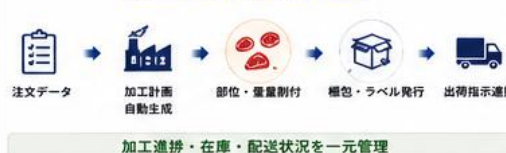
3 コールドチェーンのデジタル管理

温度・位置・扉開閉を24時間監視



5 加工・カットDXとの自動連携

物流と加工がリアルタイムでつながる



7 トラックビリティの全体像

通関・証明・船積み・海外配送までワンストップ



9 トレーサビリティと品質保証

生産から納品までのすべてを追跡



2 落札から納品までの標準物流フロー



4 AIによる配車・共同配送最適化

需要・距離・温度・時間をAIが最適計算



6 多温度帯・混載配送のイメージ

一台の車両で多温度帯を安全に配送



8 物流DXムリ視化 (ダッシュボード)

すべての配送を一画面で監視

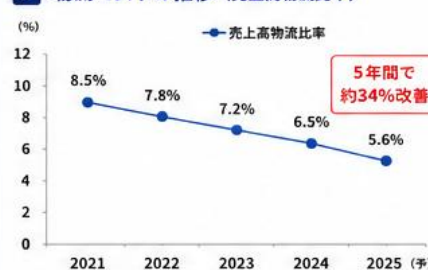


10 物流DXの効果 (全体メリット)



Chapter 11 物流DX グラフ掲載 8案

1 物流コストの推移 (売上高物流比率)



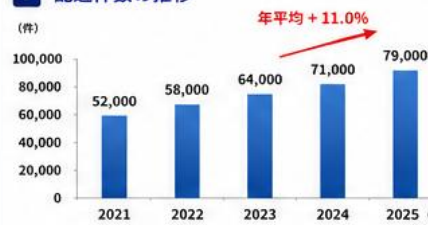
※売上高に占める物流費の割合

3 温度逸脱率の推移



※輸送中の温度基準逸脱の割合

5 配送件数の推移



※ネットオークション理由の配送件数

7 輸出配送量の推移



※輸出向け配送量 (正方向・部分向合計)

2 配送リードタイムの推移 (平均時間)



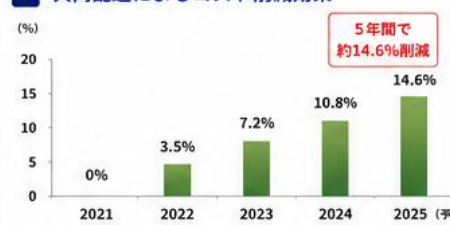
※落札～納品までの平均リードタイム

4 積載率の推移 (平均)



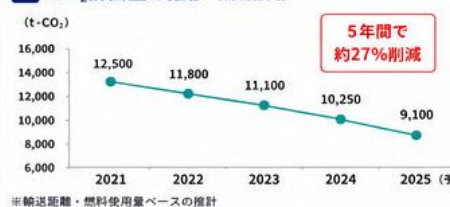
※車両の平均積載率

6 共同配送によるコスト削減効果



※個別配送比での物流コスト削減率

8 CO₂排出量の推移 (物流部門)



※輸送距離・燃料使用量ベースの推計

物流DXで実現する価値

鮮度・品質向上、コスト削減、納期短縮、可視化・安心、環境負荷低減

データがつながる食肉物流の未来

つくる人・売る人・買う人を、最適な物流でつなぐ。和牛の価値を最大化します。

Chapter 12 加工DX

図版・インフォグラフィック 10案

Chapter 12 加工DX

グラフ掲載 8案

1 加工DXの全体像

データでつながるスマート食肉加工エコシステム



データ連携・AI活用で、高品質・高歩留まり・低コストを実現

3 落札から出荷までの標準加工フロー

① 枝肉受入・検品 ② AI等検・判別定 ③ 加工計・計画立案 ④ カット・整形 ⑤ 計量・ラベル貼付 ⑥ 包装・真空 ⑦ 出荷・物流連携



標準化×データ化で、品質・歩留まり・スピードを最大化

5 用途別・商品別の加工最適化



需要に合わせた最適カットで、付加価値と販路拡大を最大化

7 原価・歩留まり・粗利・ロスの見える化



加工工程を俯瞰でき、生産効率を向上・改善。

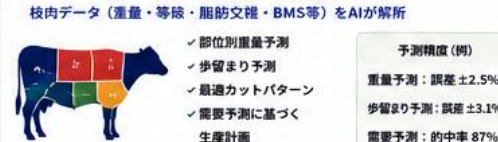
加工工程を俯瞰でき、生産効率を向上・改善。和牛の価値を最大化します。

2 落札・決済から加工・在庫・物流までの全体構想



データを一元管理し、計画・実行・評価をリアルタイムで最適化

4 AIによる部位構成予測と加工計画



AIが利益最大化となる加工プランを自動提案

6 顧客別レシピ・カット規格・包装条件の管理



顧客ごとの要求を標準化し、ミスなく安定供給

8 品質保証・トレーサビリティとの統合

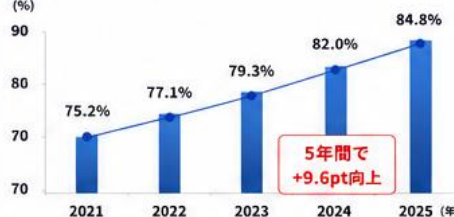


10 リスク管理と打開策

主なリスク	打開策
AI予測誤差による歩留まり悪化	AI学習精度向上・継続改善
現場食糧増・システム抵抗	現場参加の設計・段階導入
設備故障・システム障害	予備設備・障害監視・BCP
情報漏えい・サイバー攻撃	セキュリティ強化・権限制御
需要変動による在庫過多	需要予測AI・在庫最適化

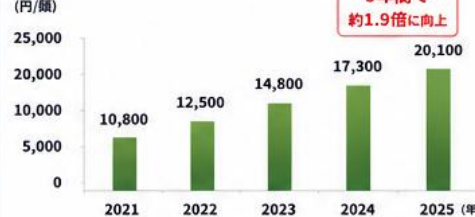
リスクを事前検知し、損失を最小化

1 加工歩留まりの推移 (平均)

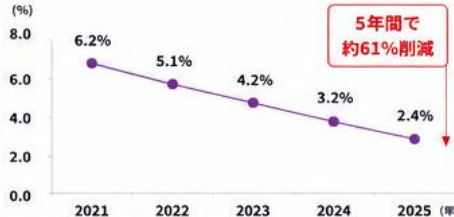


※歩留まり = 製品重量 ÷ 枝肉重量

2 1頭あたりの加工粗利の推移

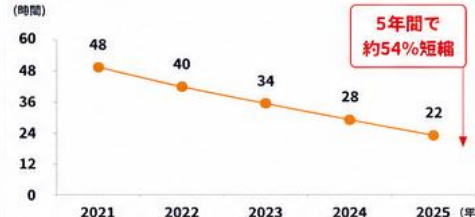


3 加工ロス率の推移



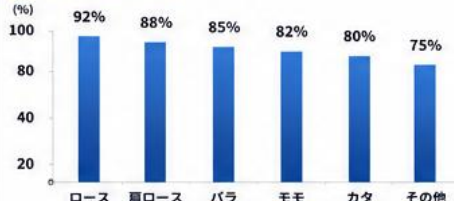
※ロス率 = ロス重量 ÷ 枝肉重量

4 加工リードタイムの推移 (落札～出荷)



※平均リードタイム

5 部位別製品化率 (2025年)



6 製品別売上構成比 (2025年)

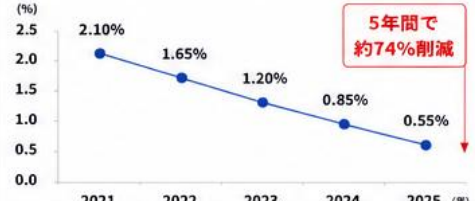


7 在庫回転日数の推移 (加工品在庫)



※在庫回転日数 = 在庫数量 ÷ 売上数量 × 365

8 不良率・クレーム率の推移



※不良率・クレーム率 = 不良・クレーム件数 ÷ 出荷件数

データとAIで加工を最適化し、歩留まり向上・コスト削減・高品質化を実現します。



Chapter 13 トレーサビリティ

図版・インフォグラフィック 10案

1 トレーサビリティDXの全体構成

データでつなぐ透明・安心の食肉バリューチェーン



個体識別から最終消費まで、一貫した情報をリアルタイムで追跡

3 標準データモデル (主なデータ項目)

生産データ	市場データ	加工データ	物流データ	販売データ
- 農場情報 - 個体情報 - 生年月日 - 血統・系統 - 飼料・給与 - ワクチン履歴 - 健康記録	- 上場日 - 市場名 - 枝肉番号 - 格付結果 - 重量・半価 - せり結果 - 買入者情報	- 加工日 - 加工場所 - 部位・規格 - 歩留まり - 加工担当者 - 品質検査 - ロットID	- 出荷日 - 温度履歴 - 車両・運転者 - 位置情報 - 到着日 - 受領記録 - 保管条件	- 販売日 - 販売先 - 商品情報 - 消費期限 - 販売価格 - 返品/クレーム - 最終消費者

標準化されたデータを共通プラットフォームで管理

5 不正・リスクへの対応



不正の抑止・早期発見・原因特定を実現

7 AI・データ活用との連携



トレーサビリティデータがAI・金融の精度を向上

9 関係者への導入効果



すべての関係者にメリットをもたらす共通基盤

2 個体識別から最終商品までのつながり

一意のIDで情報を連鎖



すべての取引・加工・物流・検査・証明をIDで連鎖管理

4 QRコード・デジタル証明書による情報表示 (例)

商品ラベルのQRコードを読み取り

表示される主な情報

個体識別番号 JP 12345 6789 0

生産農場 ○○牧場 (鹿児島県)

生年月日 2021/06/15

品種・血統 黒毛和種 (血統書あり)

飼育期間 28ヶ月

出荷日 2024/10/10

市場・格付 ○○市場 A5 BMS No.12

加工日 2024/10/12

加工工場 ○○ミート株式会社

賞味期限 2024/11/10

証明書 電子証明書 (改ざん防止)

消費者・バイヤーがいつでも安心して確認可能

6 品質問題発生時の精密リコール



影響範囲を最小化し、迅速・確実に対応

8 権限管理と情報セキュリティ



安心して使えるセキュアなプラットフォーム

10 トレーサビリティDXで将来像

データがつながり、和牛の価値を世界へ

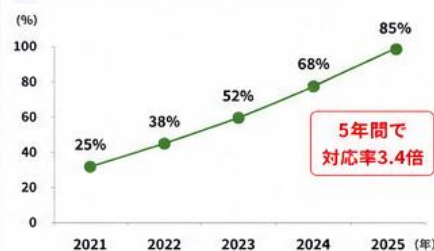


透明・信頼・高付加価値の和牛流通を実現

Chapter 13 トレーサビリティ

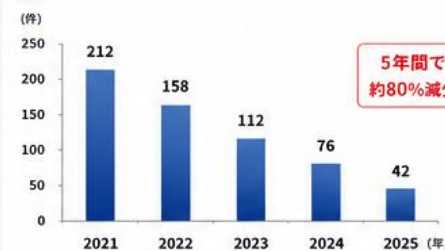
グラフ掲載 8案

1 トレーサビリティ対応率の推移



※耳標連携・市場～販売までのトレーサビリティ対応率

2 産地偽装・不正取引の発生件数の推移



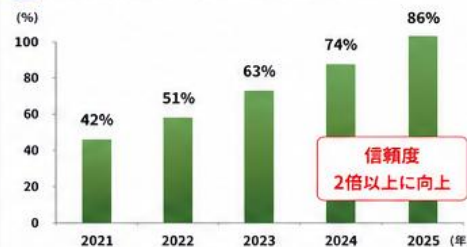
※主要市場における摘発・通報件数の合計

3 リコール (回収) にかかる特定時間の比較



※問題発生から影響商品特定までの平均時間

4 消費者の安心・信頼度の変化 (アンケート)



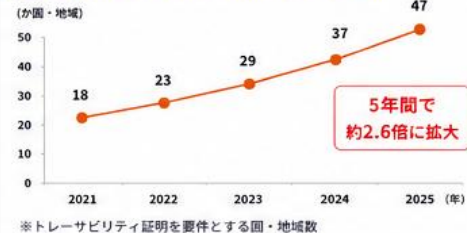
※「安心して購入できる」と回答した人の割合

5 トレーサビリティ対応による販売単価への効果



※A4・A5等級の平均販売単価

6 輸出先での受け入れ拡大 (国・地域数)



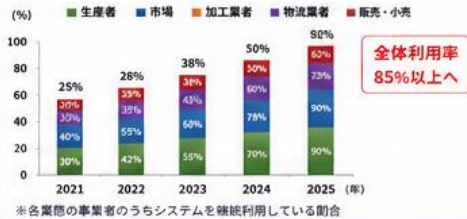
※トレーサビリティ証明を要件とする国・地域数

7 温度逸脱率の改善 (物流区間)



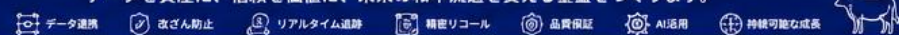
※設定温度帯からの逸脱率 (コールドチェーン全体平均)

8 システム利用率 (関係事業者)



※各業種の事業者のうちシステムを継続利用している割合

データを資産に、信頼を価値に、未来の和牛流通を支える基盤をつくります。



トレーサビリティDXで実現する価値

透明性の向上 信頼の確保 リスクの低減 グローバル競争力強化

Chapter 14 循環型農業 図版・インフォグラフィック 10 案

1 循環型農業の全体像

「和牛を中心とした地域循環モデル」



2 7つの循環工程モデル



3 バイオガス発電の仕組み

家畜ふん尿をエネルギーに変える



4 消化液・堆肥の農地還元

高品質な土づくりで収量アップ



5 稲作・飼料米・稲わら循環

水田をフル活用した循環サイクル



6 エコフィード（食品残渣の飼料化）

食品残渣を価値ある飼料へ



7 データでつなぐ循環管理

IoT・AIで「見える化」と最適化



8 地域連携の輪

多様なプレイヤーがつながる



9 温室効果ガス削減への貢献

メタン回収・化学肥料削減でCO₂削減



10 持続可能な地域循環モデルの姿

経済・環境・社会の三方よしを実現



Chapter 14 循環型農業 グラフ掲載 8 案

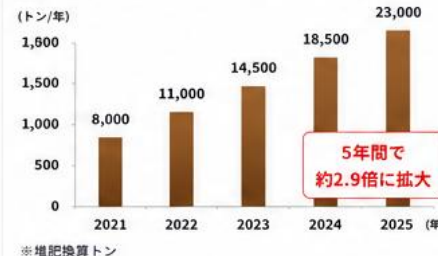
1 バイオガス発電量の推移（想定）



2 化学肥料使用量の削減効果（地域平均）



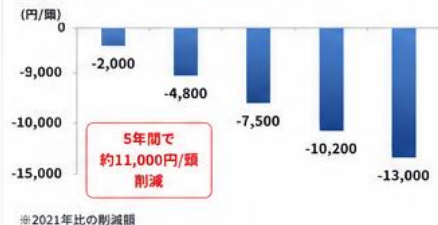
3 堆肥・消化液の農地還元量の推移



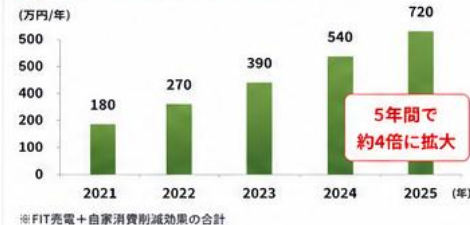
4 飼料自給率の向上（地域平均）



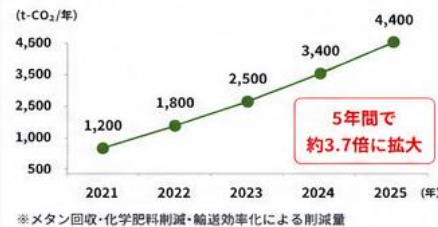
5 1頭あたりの飼育コスト削減効果



6 売電収入の推移（1施設あたり）



7 温室効果ガス（CO₂換算）削減量の推移



8 循環型農業による総合効果（経済効果の合計）



循環型農業で実現する未来 資源の循環利用 コスト削減・収益向上 環境負荷の低減 食の安全・安心 地域の活性化

和牛DX × 循環型農業で、持続可能な地域と豊かな未来を創造する

データ連携 エネルギー循環 土づくり 食料自給力向上 脱炭素社会 次世代へつなぐ

Chapter 15 環境効果 図版・インフォグラフィック 10案

1 環境効果の全体像 (和牛DXの環境インパクト)



3 消化液・堆肥の農地還元と土づくり効果



5 食品ロス削減の仕組み (AI需要予測×加工DX)



7 水・エネルギー・排水の管理



9 カーボンクレジット創出の流れ (イメージ)



2 メタン回収・バイオガス発電の仕組みと効果



4 稲わら・飼料米・エコフィード循環



6 物流DXによる輸送効率化とCO₂削減



8 環境データの見える化と価値化

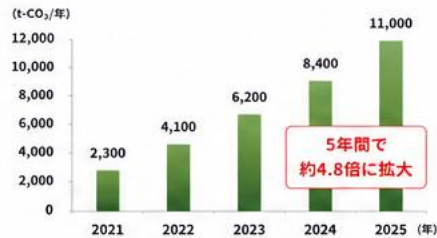


10 環境効果の波及 (SDGsへの貢献)



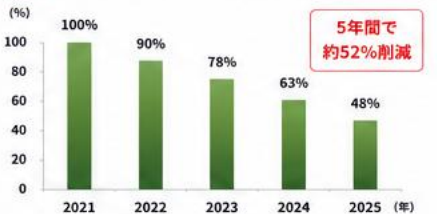
Chapter 15 環境効果 グラフ掲載案 8案

1 温室効果ガス (CO₂換算) 削減量の推移 (特定)



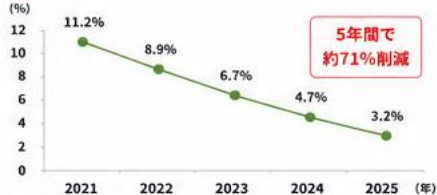
※メタン回収・堆肥化・物流最適化等の合計

3 化学肥料使用量の削減効果 (地域平均)



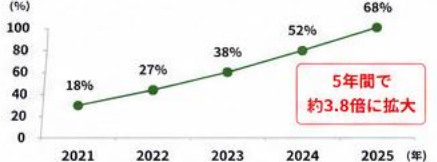
※2021年を100%とした場合の相対値

5 食品ロス率の推移 (加工・流通全体)



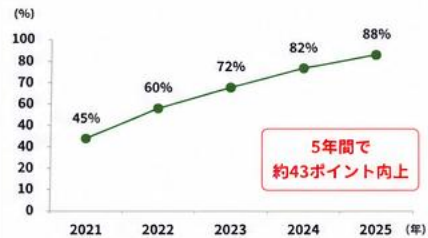
※売上ベースの食品ロス率

7 再生可能エネルギー比率の推移 (電力使用量ベース)



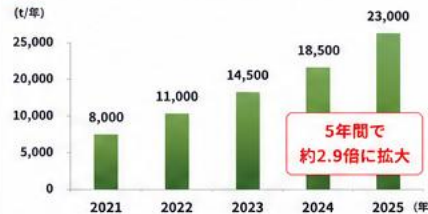
※自家発電 (バイオガス) + 外部再エネ含む

2 メタン回収率の推移 (平均)



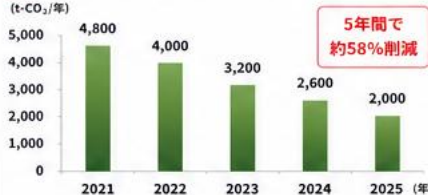
※全施設平均 (目標値)

4 堆肥・消化液の農地還元量の推移



※堆肥換算トン

6 物流におけるCO₂排出量の削減効果



※2021年比

8 環境効果の経済価値 (推計) の推移



※エネルギー収益+肥料代替+ロス削減+クレジット等の合計推計

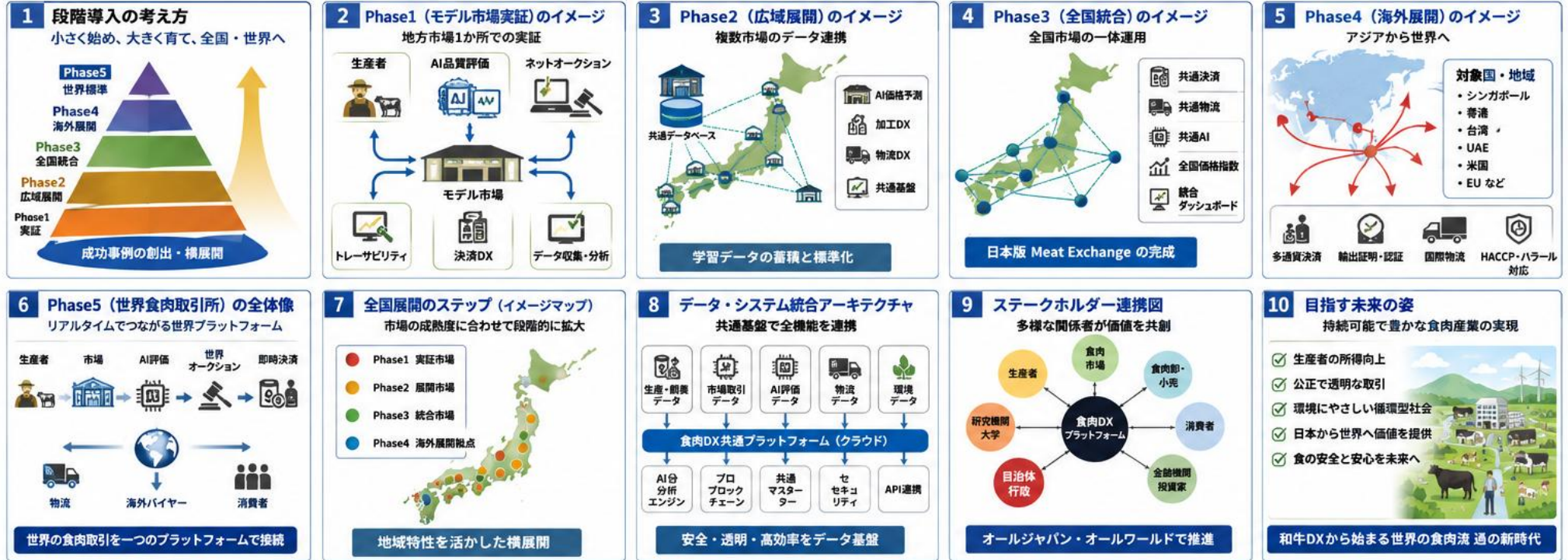
和牛DXの環境効果で、脱炭素・資源循環・地域活性化の三方良しを実現



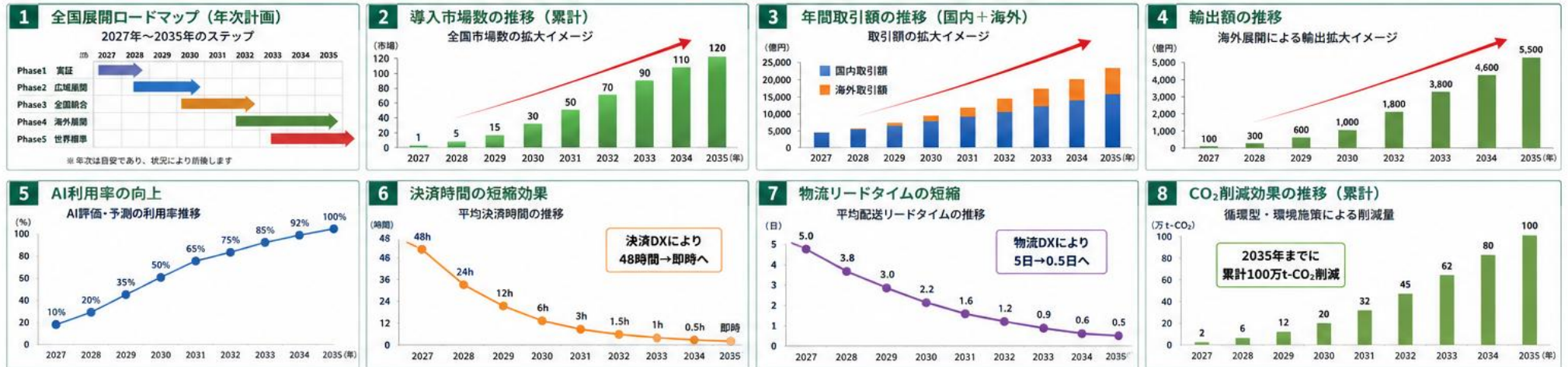
環境効果 ポイント



図版・インフォグラフィック 10 案（導入ロードマップ・全国展開戦略）



グラフ掲載 8 案（導入ロードマップ・全国展開戦略）



図版・インフォグラフィック 10 案 (Chapter17 総括・未来展望)



グラフ掲載 8 案 (Chapter17 総括・未来展望)



① 特許AI個体識別 × DXオークション

AI個体識別システム
特許技術で個体を科学的に評価



- ・個体識別
- ・血統・育種データ
- ・健康状態
- ・肉質・歩留まり予測

デジタルデータで全てを可視化



DXオークションプラットフォーム

全国・海外のバイヤーとつながる

- ・リアルタイム競り
- ・透明性の高い取引
- ・価格の最適化
- ・決済のデジタル化



ブロックチェーンで信頼を担保

- ・改ざん不能な取引記録
- ・トレーサビリティの確保
- ・スマートコントラクトで自動決済



スマート食肉産業がもたらす価値



経済的価値

- ・高付加価値化
- ・ブランド価値向上
- ・輸出拡大
- ・所得向上



環境的価値

- ・資源の循環利用
- ・CO₂削減
- ・脱炭素社会の実現



社会的価値

- ・地域雇用の創出
- ・食の安全・安心
- ・持続可能な地域づくり

テクノロジーが支えるスマート食肉産業



AI・ビッグデータ
個体評価・需要予測



IoTセンサー
健康管理・環境管理



クラウド連携
データ共有・分析



ブロックチェーン
信頼の証明・取引記録

和牛の力で、未来の地球を守る

～テクノロジーがつなぐ、食・エネルギー・環境の完全循環モデル～

高品質な和牛生産

- ・健康管理・血統管理
- ・最適な飼育データ活用
- ・ストレスフリーな環境

食の安全・安心

- ・トレーサビリティの確保
- ・ブロックチェーンで透明性を担保
- ・安心な食を全国・世界へ

持続可能な未来

- ・資源を無駄にしない循環型社会
- ・地域の活性化・雇用創出
- ・次世代へ豊かな地球を継承

和牛を中心に、価値と資源が循環する新しい食肉産業のかたち



④ 有機肥料として農地へ還元

土を豊かにし、作物を育てる



- ・有機肥料として農地へ還元
- ・土壌の微生物が活性化
- ・化学肥料の削減で環境にやさしい農業を実現
- ・おいしい米や野菜が育つ

② 稲わら飼料 × 地域資源の活用

国産資源でコストを抑え、品質を高める



稲わら



発酵飼料化



高品質な飼料に

- ・地域で生産される稲わらを有効活用
- ・発酵技術で栄養価の高い飼料に加工
- ・和牛の健康と肉質向上に貢献

③ メタン発酵バイオガス発電

エネルギーを生み、環境負荷をゼロへ



バイオガスの力



- ・家畜の排せつ物をエネルギーに変換
- ・発電・熱利用でエネルギー自給
- ・CO₂削減と脱炭素社会に貢献

この循環が、未来をつくる

- ① 和牛を高付加価値で生産・販売
- ② 稲わらなど地域資源を飼料に活用
- ③ 排せつ物をバイオガスでエネルギー化
- ④ 有機肥料として農地へ還元

持続可能な社会を、テクノロジーで実現!



食とエネルギーの自給こそ、国の安全保障



食料安全保障
安定した食料供給



エネルギー安全保障
自給自足のエネルギー



経済安全保障
強い産業と地域経済



持続可能な未来
次世代へつなぐ豊かな地球